

ロンドン自転車展示会 (Cycle Show)

イギリス、ロンドンにて自転車展示会「Cycle Show」が 2007 年 10 月 11 日(木)から 14 日(日)の 4 日間に亘り開催された。本展示会は自転車小売店やサイクリスト向けのユーザーショーとして 2002 年より開始され今年で 6 回目を数える。今年は、会場をロンドン市内中心部に近い場所に移動し、展示面積も拡大しての開催となった。

【Cycle Show】

主催： Upper Streets Events 社

会場： Earls Court 1 (昨年 ExCeL)

会期： ビジネスデー； 2007 年 10 月 11 日(木)

一般公開： 2007 年 10 月 12 日(金)～14 日(日)

開催時間： 10:00～18:00 (13 日は 19:00 まで開催)

展示面積： 23,000 m² (昨年 9,000 m²)

入場者数： 22,000 人

出展社数： 158 社・392 ブランド (昨年 145 社)



Earls Court エキジビションセンター



Earls Court1 入口

順調な会場移転

昨年まで展示会場としていた ExCeL はロンドン市西部の郊外ロンドン・シティ空港近くのホテルに隣接する会場であった。ここでは 2005 及び 2006 年の 2 年間開催し、今年から Earls Court (アールズコート) というロンドン市内中心部に位置し、ヒースロー空港からのアクセスもよい、交通の便の良い展示会場へと場所を移しての開催となった。展示面積は昨年 9,000 m² から今年は 23,000 m² と一気に 2.5 倍も増えた。

初日はビジネスデーとして、英国自転車小売業者協会(アクト)会員の自転車専門小売店主などが参加し一般公開はなかった。主催者によると、ビジネス来場客のうち 48% は自転車専門小売店、7% が卸兼小売業者、8% は製造業者、9% は健康・フィットネス用品関係者及び 10% が公共団体関係者となっている。一般来場客へのアンケート結果からは、来場者年齢層

の 64%は 25～45 歳、全来場者の 68%はロンドン市内及びその近郊から参加であった。また、一般来場者が自転車及び関連商品に費やす年間費用は 1 人当たり平均 600 ポンド（135,000 円 1 ポンド 225 円換算）と推計され、それは市場規模では 1,000 万ポンド（22.5 億円）に相当する。



ラレーブース 入門用 MTB、F サスモデルは 300 ポンド前後から



Condor ブース 最先端のカーボン車とは一線を画すスポーツ車

展示会概要

会場入口の正面には、地元有力メーカーのラレーが大きなブースを構え、MTB ではハイエンドモデルのフルサス車から類型車まで、その他、BMX、シティ車、幼児車及び子供車と幅広く展示されていた。その他欧州メーカーでは、MTB ではスコット、CUBE、FOCUS、bmc、ロードレーサーではコルナゴ、デ・ローザ、ピナレロなどの高級ブランド車が顔を揃え、米国ブランドもトレック、スペシャライズドといった有力メーカーを筆頭に、MTB ではマングース、GT、イエティ、さらにチタンフレームのムーツやセブンといったより専門的で嗜好性の高いものの展示が見られた。

出展自転車の中で特徴的であったのは、いまやクラシカルともいえるスタイルの自転車を展示しているメーカーが多々見られたことである。近年カーボンフレーム、カーボンパーツ

をふんだんに取り入れた各メーカーのトップモデルが、同じようなデザイン、部品構成で差別化が図りにくくなる中でかえって新鮮に映った。フレームはコロンバスやレイノルズなどのクロモリパイプで、アルミの太いパイプを見慣れた目には随分細く見合える。フレームカラーは黒、紺やメッキフレーム等、シックな色合いのもので派手なロゴやデザインは一切ない。ハンドル、ステムやペダル等もメッキの美しい金属パーツが多用され、サドルはブルツ



Mosquito



Velorbis



Pashley Cycle



クラシカルなスタイルの自転車群

クスの皮サドル、グリップやバーテープも茶系に統一するこだわりようである。タイヤもクリーム色系のものもあり、一層クラシカルな雰囲気醸し出していた。これら多くの自転車は過去に作られたものではなく、2008年モデルとしてカタログ掲載されている現行品である。そのような自転車の展示は、他国のショーではあまり見られず大変興味深い。これらの自転車に装着される部品類は、安価な樹脂やアルミではなく付加価値の高い金属製部品も多い。他のMTBやロードレーサーといったスポーツ車に比べれば取扱量は少ないかもしれないが、高品質の日本製自転車部品の中にもまだまだ可能性があるものがあると思われる。



MTB 試乗コーナー



ロンドン交通局コーナー

参加コーナー

主催者は、ロンドン市周辺より遠方からも幅広く来場客を集めたい考えであり、来場者のための参加コーナーも協賛者とともに準備していた。昨年まで屋外にあった MTB 試乗コースは今回、室内にコースを設け、10月の変わりやすい天候に左右されることなく子供や初心者も安心して試乗できる場所を提供できた。さらに協賛者の1つであるロンドン交通局も交通安全促進を主旨としたコースを別途設けていた。同じく同展に協賛している交通関連の非営利団体 sustrans との誌上インタビューによると、ロンドン交通局長はロンドン市内の地下鉄やバスなどの公共交通機関と自転車及び徒歩を連携させ、市内の交通渋滞緩和につなげたいと述べている。2012年にオリンピック開催も控え、ロンドン市と交通局にとって交通渋滞緩和と交通インフラ整備は重要な問題である。現在、平日朝夕のピーク時を除き公共交通機関への自転車持込は可能である。また、市内14区域にわけた詳細なロードガイドマップを作成し、各駅にて該当地域のガイドが無償配布されている。ロンドン交通局がいかに自転車に注目しているかが分かる。

同展に参加している出展者は、10月中旬という開催時期が英国市場のユーザーに向けてニューモデルを紹介するには最良の時期であるとしている。

来年も同展はアールズコートにて、2008年10月9日～12日の4日間、開催予定である。

以上

(デュッセルドルフ事務所)